

校内放送やポスターで呼びかけ。オリジナルの宣誓文を読み上げて、一斉に立ち上がりました。 （京都府／中学生）	日常の保育の中で、貧困について考える機会があったのでアクションしました。 （北海道／保育士）	できるだけ私生活にフェアトレード商品を取り入れます。 （大阪府／大学生）
会社の昼休みに事業所員を集めて立ち上がりました。 （静岡県／会社員）	参加者の声	開発教育をすすめ、MDGs達成のために行動する市民を増やします。 （東京都／NGO 職員）
役員会議終了後、清掃活動の参加者とともに立ち上がりました。 （神奈川県／不動産業）		使用済み切手や古切手を集めて、寄付します。フェアトレード商品を利用します。 （静岡県／子ども会一同）

活動報告書2011



「動く→動かす」は、途上国の貧困問題解決に取り組む日本のNGO64団体*が加盟するネットワークです。発足は2009年3月。「貧困を生むしくみを変える」ことを目的に、スタンド・アップを始めとするキャンペーンや、政策提言などのアドボカシー活動を行っています。世界100ヵ国以上に拠点を持つ貧困問題解決のためのネットワークGlobal Call to Action against Poverty (GCAP) の日本版です。
※2011年12月31日現在

STAND UP TAKE ACTION 活動報告書 2011

【発行人】津山直子（動く→動かす 代表）

【編集人】笠原由晶（動く→動かす 事務局）

【制作】桂川ともこ（ボランティアスタッフ）

【発行所】動く→動かす 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル2F 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会（AJF） 気付

TEL：03-3834-6902 FAX：03-3834-6903 E-MAIL：info@standup2015.jp

【PCサイト】<http://www.standup2015.jp/> 【携帯サイト】<http://www.standup2015.jp/m/>

【公式ブログ】<http://ameblo.jp/standup2015/> 【Twitter】<http://twitter.com/sutajp/>

【グローバルサイト】<http://www.standagainstpoverity.org/>（アラビア語・英語・フランス語・スペイン語・ドイツ語）



立ち上がる。 その一瞬の行動が 世界を動かす力になる。

世界の貧困問題解決を目指して2000年に採択された、ミレニアム開発目標（MDGs）。世界189カ国のリーダーたちが「2015年までに世界の貧困を半減する」ことなどを約束しました。しかし、途上国への資金援助や技術支援は進んでおらず、目標の達成は大変むずかしいと言われています。このような状況のなか、2006年に始まったグローバルアクションが「スタンド・アップ（STAND UP）」です。世界各地で市民が立ち上がり、世界の貧困を終わらせるというたくさんの声を各国のリーダーたちに届けました。

※2006年から2009年にかけては、世界全体で参加人数と実施件数を集計して、ギネス記録への挑戦を行ってきました。日本では、2010年以降も参加人数と実施件数を集計しています。

STAND UP TAKE ACTION 運営主体

国際連合ミレニアムキャンペーン（UNMC）とGlobal Call to Action against Poverty（GCAP）[※]の呼びかけでスタンド・アップは始まりました。日本ではGCAPの日本版「動く→動かす」が国際連合広報センター（UNIC）と協力して運営を担っています。

※100カ国以上に広がる、貧困問題解決を目的とした世界最大のネットワーク。

主催 **動く→動かす**
もう一歩、貧困のない世界へ

共催 国際連合広報センター（UNIC）

協力 世界の「貧しい」を半分に。MDGs 2015キャンペーン
なんとかしなきゃ！プロジェクト

後援 外務省
社団法人ガールスカウト日本連盟
グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク
独立行政法人国際協力機構（JICA）
財団法人世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会
公益財団法人日本ユニセフ協会
日本労働組合総連合会（連合）
パルシステム生活協同組合連合会
公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

6年目を迎えたスタンド・アップ。 新しい一歩をふみ出しました。

2006年に始まったスタンド・アップ。

世界各地で2000万人が立ち上がってから毎年規模が拡大し、2009年には121カ国で1億7300万人が参加する貧困解決のための一大キャンペーンになりました。

6年目を迎えた今年、スタンド・アップは新しい一歩をふみ出しました。

これまでは世界中で同じ日程、同じ方法で同時に行ってきましたが、今年から、各国の状況や文化に合わせて日程や方法を少しずつ変えながら、ゆるやかなネットワークで「貧困をなくそう」という世界の声を1つにつなげいきます。

たとえばドイツでは、政府の年度予算編成に合わせて「DEINE STIMME GEGEN ARMUT」（貧困に対して声を上げよう）キャンペーンを展開。全国各地でイベントを実施したり、写真や動画の投稿を呼びかけました。またオーストラリアでは、「MDGsで結ばれた約束を守って欲しい」という想いを込めて握手の写真を送る「KEEP THE PROMISE」（約束を守れ）キャンペーンを行いました。

日本国内での動き

日本では、「立ち上がる」という簡単な方法で貧困解決への意思を示すスタンド・アップを継続。

日程をこれまでよりも拡大して、より多くの人たちが声を上げられることを目指しました。

東日本大震災によって多くの人たちが困難に直面する中で、どのようなキャンペーンを行うべきなのか。

スタンド・アップを主催するネットワーク「動く→動かす」では、石巻市（宮城県）の方々の協力を得て、途上国の地域リーダーたちと被災した方々が絆を深める交流イベントを実施しました。震災から立ち上がろうとする人たちと、途上国で災害や紛争、極度の貧困などに直面しながらも地域復興に取り組んできた途上国のリーダーたちがつながることで、よりよい未来が開けるのではないかと考えたためです。

また、震災を機に見つめ直された、大切な家族や仲間、そして世界とのつながりを意識して、「絆」のテーマでフォトコンテストを行いました。

>> 次のページから活動を詳しくご紹介します。

STAND UPの歴史



2006年 STAND UP
「貧困をなくそう」という世界の人々の声を一つにするために、スタンド・アップははじまりました。1年目に見事ギネス記録を樹立しました。

世界 2354万2614人
日本 2711人



2007年 STAND UP SPEAK OUT
自身を持つギネス記録を更新しました。日本でプロサッカー国際試合の協力を得るなどして、参加者数が飛躍的に増加しました。

世界 4371万6440人
日本 4万8205人



2008年 STAND UP TAKE ACTION
世界131カ国で7777のイベントが実施され、ギネス記録をまたしても更新しました。日本では草の根のイベントが増加しました。

世界 1億1699万3629人
日本 2万2698人



2009年
STAND UP TAKE ACTION

世界一大きな同時アクションとして、前年比約1.5倍の参加を集めました。国内では46都道府県にスタンド・アップの輪が広がりました。

世界 1億7304万5325人
日本 3万3497人



2010年
STAND UP TAKE ACTION

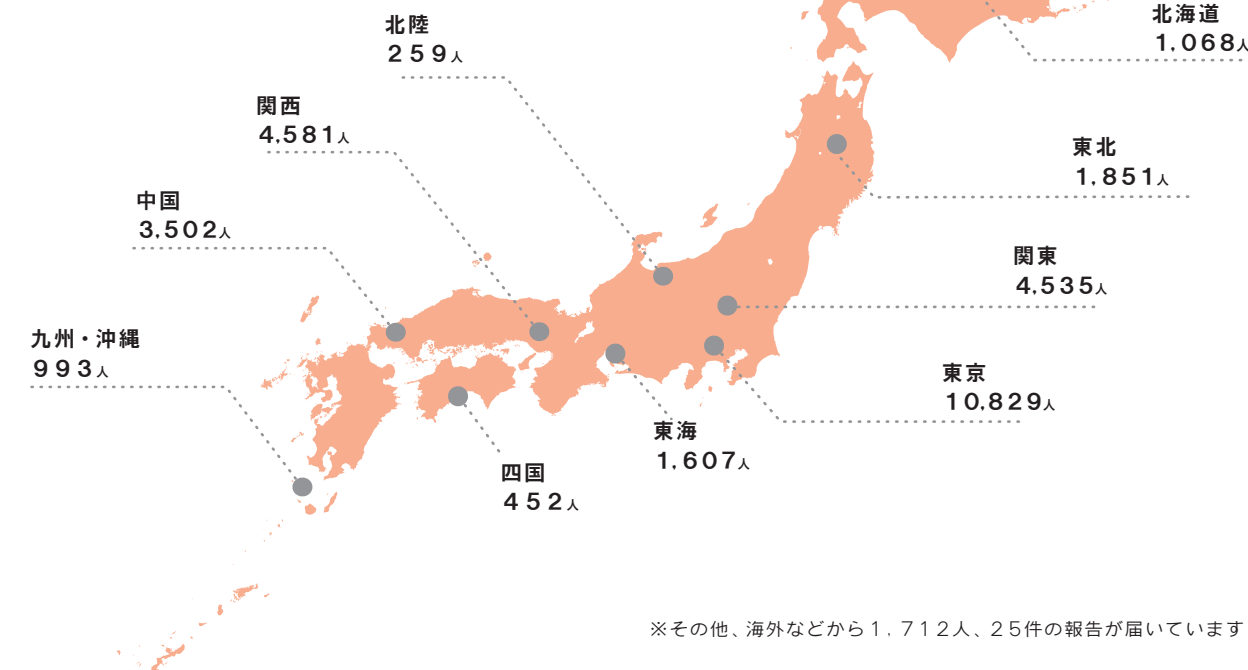
5年に1度の大切な会議「国連MDGsレビュー・サミット」直前にアクションを実施。日本では47都道府県の市民が行動を起こしました。

世界 74カ国
日本 1万8240人

貧困解決のために、今、行動しよう。

世界の貧困をなくすために、3万1389人が行動を起こしました。

国際機関やNGO関係者はもちろん、企業・労働組合・学校などの取り組み、友達や家族との気軽なアクションなど、過去最高の933グループから報告が届きました。



土曜日の渋谷で。
東京・表参道(10/15)

大きな旗を掲げて渋谷をぐるりと1周。貧困解決をアピールしました。パレード後は、国連大学でのトークライブ「震災をとおして見えた世界と日本」にて、サッカー元日本代表の北澤豪さんやスリランカから来日したゲストなどの話に耳を傾けました。



外務省も一致団結。
東京・霞ヶ関(10/17)

加藤敏幸外務大臣政務官の参加のもとにスタンド・アップ。250人が立ち上がりました。「国際機関やNGOといっしょに、途上国支援を強化していきます」。



国内ネットワークと協力。
東京・飯田橋(10/16)

国内の貧困問題に取り組む反貧困ネットワークもアクションに参加。反貧困世直し大集会2011に集まった290人が立ち上がりました。

広報・メディア掲載

STAND UP TAKE ACTIONの取り組みが多くの人に報道されました。

また、「動く一動かす」でもチラシやポスターなどを制作して多くの方に参加を呼びかけました。

◎新聞掲載記事 1件・・・10月15日 岩手日報：震災への思い 世界へ被災県代表し参加

◎ラジオ出演 2件・・・9月25日 J-WAVE ロハスサンデー
10月5日 TOKYO FM シナプス

◎雑誌掲載記事 1件・・・ソトコト11月号(第149号)

◎WEB掲載記事 1件

※その他、70件以上のブログやホームページで紹介されました。



ユニークフォトコンテスト受賞作品

ひとときユニークな写真を表彰するユニークフォトコンテスト。

2011年は「絆」のテーマで選考を行いました。12グループの受賞作品をご紹介します。

人権と社会正義のために。



ソーシャルワーク(社会福祉実践)を学ぶ大学生が、クラス全員できれいなハートを作り上げました。「手をつないで立ち上がった瞬間、大きな困難にもみんな一緒に取り組めると感じました」。

福井県／福井県立大学
看護福祉学部社会福祉学科

会社の全事業所で。



「社会貢献活動として全員参加できることが決め手となって」2009年から参加。過去最高の1700人が朝礼や昼休みなどに立ち上がりました。

大阪府、兵庫県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県
／リコージャパン株式会社 関西営業本部

未来へのカギに想いを込めて。



問題解決の「鍵」である「絆」によって、震災からの復興が「花」開いてほしいという想いが込められています。ユネスコ部が事前授業や呼びかけ、当日の実施を担いました。

大阪府／キズナカマ(絆仲間)
大阪教育大学附属高等学校池田校舎

アーティストと心を1つに。



公園の自然に親しみながら、マイケル・ジャクソンと世界の国々をテーマにしたボードを作成。貧困問題を取り上げた名曲Man in the Mirrorを聞きながら、宣誓文を読んで立ち上がりました。

東京都／MJ Fan - 代々木公園-

家族とともに。



一番身近でかけがえのない仲間、お父さんとともにスタンド・アップ。

大阪府／lako Family

家族や地域の方々とともに。



これまでは朝行っていたアクションを、文化祭の開会式で実施。生徒だけではなく、先生や家族、地域の方々とのつながりを意識して立ち上がりました。

北海道／北海道石狩市立厚田中学校

手のひらにぬくもりを感じて。



ドイツでの公演直前にアクションに参加。「わたしは1人ではないと感じることが困難に立ち向かう第一歩」と、みんなで手のぬくもりを確かめ合いました。

京都府／社団法人桧垣バレエ団

空手道場で。



平和やMDGsの達成のためにみんなで協力しあっているという願いを込めて、空手道場の流派「和道流」の「和」を囲んで立ち上がりました。

佐賀県／夢学&古賀道場

富士山麓で。



自然の再生を願い、富士山五合目で植樹活動を実施。参加したグループ会社の有志従業員と家族で立ち上がりました。

静岡県／株式会社荏原製作所

児童労働をなくしたい。



子どもにもできることはたくさんある。近所のスーパーから協力を得て、募金活動にも取り組んでいるそうです。

長野県／伊那東小学校 5年末組

留学先で。



MDGsに関心を持った仲間同士の新たな絆が生まれることを願って、自己紹介をしながら赤い毛糸をつなぐことで、1つの形を完成させてテーマを表現しました。

米国／Global Student Program students★

生徒会の呼びかけで。



「絆」のテーマに真っ向勝負。生徒会が中心となって学内に呼びかけて、全校生徒49人で人文字を完成させました。

群馬県／桐生市立黒保根中生徒会

石巻国際まつり

10月11日、東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市（宮城県）のイトピア商店街で、「石巻国際まつり」が開催されました。途上国で災害や貧困の中から立ち上がり、地域復興の先頭に立ってきた3人のリーダーが、被災した方々との絆を深め、復興への経験を共有しようといわれたものです。

来日したのは、インド洋大津波で被災したニャーナセルバム・バサンタカラさん（スリランカ）、HIV 陽性者としてエイズに取り組んできたローズ・タマエさん（南アフリカ共和国）、イラク南部のバスラで子どもたちの保健医療活動に取り組んできたイブラーヒーム・ムハンマドさん（イラク）の3人。

ゲストたちは、10月9日から11日の3日間、宮城県・石巻市に滞在。9日には門脇地区などの被災地域を、



小野くみこさんたちによる民謡には、来日ゲストも参加。



三反走仮設住宅で地域の方々とともにスタンド・アップ。



記者会見での発言は、数社に取り上げられました。

一緒に力を合わせれば わたしたちには 何かができる

10日には河北地域・三反走仮設住宅を訪ねて、地域づくりの経験を共有しました。

イベントは、演歌歌手・小野くみこさんたちによる民謡で開幕。メイン企画として、東日本大震災以降石巻市で医療活動を行っている日本・イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）代表の鎌田實さんによる特別講演が行われました。

続けて、来日ゲストの1人、ローズ・タマエさんのかけ声とともに、参加者全員でスタンド・アップ！地域に伝わる「獅子振り」の舞でイベントは幕を下ろしました。3人は東京でもスタンド・アップのメインイベントで活躍したほか、記者会見や国会の院内集会、反貧困ネットワーク主催イベントなどに参加。震災からの復興と世界の貧困解決の両立を訴えました。

地域の方々の声

いろんな団体がいろんな企画で石巻に入ってくる中で、イベントの後の後が重要ですね。これからも石巻での継続的な支援を行ってください
（Ishinomaki 2.0さん）

たくさんの色んな人たちが来て楽しかった。地元の人も喜んでくれた。いい企画でした。
（かめ七呉服店さん）

みんなの前で地元の力をお披露目できることは、非常にありがたいことです。違う国の人にも見えてもらえて子どもたちも楽しんでくれたみたいで、こちらも嬉しいよ。また呼んでください。
（渡波獅子風流塾さん）

ゲストプロフィール



ニャーナセルバム・バサンタカラさん
（Ms. Gnanaselvam Vasanthakala）

スリランカ東部パッティカロア県「ティルベルンドゥライ開発協会」所属。2004年のインド洋大津波に被災。2007年に激化した内戦も乗り越えてコミュニティの再建に尽力する、30代の女性リーダー。



イブラーヒーム・ムハンマドさん
（Mr. Ibraheem Muhammad）

イラク南部の大都市バスラで、「日本イラク医療支援ネットワーク」（JIM-NET）による子どもたち対象の保健医療活動や地域の再建に向けた様々な活動を展開している。



ローズ・タマエさん
（Ms. Rose Thamae）

南アフリカ共和国ヨハネスブルク郊外の黒人居住区でHIV陽性者の自助グループ「レット・アス・グロウ」を結成。自身も陽性者としてエイズと闘いながら、戸別訪問ケアや仕事づくり、若いリーダーの養成などを手掛ける地域の「ママ」。

石巻国際まつり 報告書 2011



石巻国際まつり2011運営主体

共催：動く→動かす、Ishinomaki 2.0、日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
特定非営利活動法人オックスファム・ジャパン、一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター
後援：石巻市
「石巻国際まつり」の報告書を発行しました。詳しくは「動く→動かす」事務局までお問い合わせください。

私たちのゴール ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けて

10年間の継続した取り組みによって、MDGsは確かな実績を残してきました。

例えば教育分野では、途上国政府が教育への支出を増やして無料化に踏み切ったことなどによって、3300万人の子どもが新たに小学校に通えるようになりました。また、ルワンダやタンザニア、エチオピアなどをはじめアフリカの多くの国々では、政府が予算を医療分野に積極的に使ったり、先進国からの資金援助を活用することで数百万人が医療を受けられることになりました。

特に、保健医療従事者を増やしたこと、医療費の個人負担を廃止したことなどによって、乳児死亡率や妊娠・出産時に命を落とす女性の数は大きく減りました。これらは、途上国と先進国が協力したからこそ生まれた成果です。

では、残された4年間で目標を達成して、貧困のない世界を実現することはできるのでしょうか。

2011年6月、「MDGsフォローアップ会合」が東京で開催されました。

前年9月に米国・ニューヨークで行われた「国連MDGsレビュー・サミット」の成果を引き継いで、目標達成のために必要な取り組みを議論する国際会議です。東日本大震災への対応に追われる中で、日本政府がこの会議を予定通り開催して、教育と保健分野に5年間で85億ドルの支援を行う「菅コミットメント」（※）などの過去の約束の実行を宣言したことは評価できます。

しかし、MDGs達成の前提となる資金をどのように確保するかについては、議論は尽くされませんでした。長引く世界経済危機の影響から先進国は開発資金の増額に消極的で、見通しは今なお見えません。中東諸国の政治変動など新しい危機も重なり、期限を目の前にして達成への政治的な意志は世界的に弱まっています。

「世界の貧困をなくす」という目標をあきらめる訳にはいきません。

国際社会が再び一丸となって貧困解決に取り組むよう働きかける、私たち一人ひとりの行動が必要です。

※ 内訳は教育分野35億ドル、保健分野50億ドル。教育分野は全体の援助額であり、MDGsが重視している基礎教育分野への支出額は明記されていない。保健分野は過去5年間の実績と比べて若干の増額。また、この一環として世界エイズ・結核・マラリア対策基金に当面8億ドルを拠出すると表明した。

ミレニアム開発目標 （MDGs）とは

ミレニアム開発目標（MDGs）は、先進国と開発途上国の代表者たちがともに協力しあい、貧困のない世界を実現するためのグローバルな目標です。2000年9月の国連ミレニアムサミットで採択された「国連ミレニアム宣言」に基づいて、これまでの開発目標が統合されました。貧困問題や教育、医療など分野ごとの数値目標を定め、2015年を期限として実現を目指しています。



目標 1
とてつもない貧困と飢えをなくそう



目標 2
みんなが小学校に通えるようにしましょう



目標 3
ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう



目標 4
子どもの死亡率を下げよう



目標 5
女性が健康な状態で妊娠し、子どもを産めるようにしましょう



目標 6
HIV/エイズ、マラリア、その他の病気が広がるのを防ごう



目標 7
環境の持続可能性を確保しよう



目標 8
世界の一員として、先進国「も」責任を果たそう